



SDGs×ESD レポート

Vol.5

発行：NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）



新型コロナウイルス感染拡大に伴い、慌ただしい新年度が始まった方も多いことと存じます。このような時だからこそ、私たちの社会の今後の在り方や、ESD（持続可能な開発のための教育）の役割を深く考える機会と、前向きに捉えたいと考えています。

2019 年度事業報告



2019 年度 ESD 活動支援センター事業報告

理事 鈴木 克徳

2016 年 4 月の開設以来、全国センターは、地方センター、地域 ESD 活動推進拠点（地域 ESD 拠点）、全国規模の ESD 推進組織・団体、企業等との連携のもとに、主に以下の活動を行ってきました。

- ESD 活動に関する相談・支援窓口の運営
- ウェブサイト、SNS を用いた ESD・SDGs 関連情報の収集・発信
- ESD 推進ネットワーク全国フォーラムの開催
- 地域 ESD 拠点の形成・強化支援
- ESD を推進する全国規模の組織・団体との関係構築と連携強化
- ESD 推進ネットワークの可視化とその共有
- ESD 関連事業の後援
- 講師派遣・紹介
- その他、国際フォーラムの開催等 ESD 推進ネットワークの促進に資する活動

それらの活動の結果、2020 年 3 月末までに地域 ESD 拠点に登録する団体が 120 に増加する等、この 4



年間で ESD 国内実施計画に示されたネットワークの体制の基盤整備が大きく進みました。

特に、2019 年度は、GAP の終了年、ESD 国内実施計画の最終年度に当たり、大きな節目の年でした。国際的には、GAP に代わる新たな ESD 推進の国際枠組みである「持続可能な開発のための教育：SDGs 達成に向けて(ESD for 2030)」が 12 月に国連総会で採択されました。我が国は、ESD 国内実施計画のレビューを行うとともに、ESD for 2030 を踏まえた新たな国内実施計画の策定に向けた準備を進めました。

そのような状況を踏まえ、ESD 活動支援センターでは、上記のルーチン的な活動に加え、2016 年度からの 4 年間の ESD 推進ネットワークの成果と課題等を「ESD 推進ネットワークの成果概要（2016-2019）」として取りまとめました。成果概要では、ESD 推進ネットワークが ESD を推進するために有効であり、大きな潜在力を持つことが見てくるとともに、地域 ESD 拠点の機能強化、協力団体や企業、自治体の位置づけの明確化などが今後の課題であることが明らかになりました。

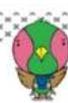
※同報告書は、以下リンク、QR からダウンロード可能です。(https://bit.ly/2VsMN5A)



岡山 ESD コーディネーター養成研修事業報告

本事業は、岡山 ESD 推進協議会（岡山市市民協働局 ESD 推進課）の委託事業で、ESD コーディネーターとして必要な視点やスキルを身につけた人材を育成するものです。2019 年度は「SDGs を視野に入れた地域づくり」をテーマに、「実践事例から学ぶ ESD 企画書の作り方」をメインに岡山の人材が協働して行いました。主な内容は、以下の通りです。

- 第 1 回集合研修（11 月 1 日）「ESD・SDGs の基本情報の共有」「事例から学ぶ ESD・SDGs」「企画の基礎の共有」「企画の前提条件と企画意図の整理」
- 第 2 回集合研修（11 月 29 日）「企画の前提条件と企画意図のわかちあい」「ESD による企画づくりの方法を事例から学ぶ」「企画の概要書を書いてみる」
- 個別相談会（12 月 6 日等）「ESD の視点を持った企画書づくりについての個別相談」
- 第 3 回集合研修（1 月 24 日）「企画書の発表とフィードバック」「企画の練り直しと弱音吐きタイム」「Q & A（皆の疑問を皆で考える）」「全体総括、ふりかえり」



©おかやま ESD なび

副代表・中国地方担当理事 池田 満之

「修了証の授与」です。

研修を行ってみて、何のために行うのかという最終ゴールとなる「目的」が見通せていなかったり、「目標」が達成できる現実的なサイズでなかったり、前提部分に思い込みが強すぎていたり「背景」が深掘りできていない（根源を問う、深い問いができていない）人もいました。もっと「マーケティング分析」（「提供される人」の視点）と「ポテンシャル分析」（「提供する人」の視点）を身に付けてもらう必要があると感じました。

（次ページに続く）



また、受講生の振り返りから、「ESD は問い、SDGs は答えだと分かった」「ESD コーディネーターの役割と望まれる資質、ESD とSDGs のそれぞれの役割の違い、ESD の企画づくりノウハウが分かった」「自分の思いを掘り起こすことが、深い問いにもつながってくるということが分かった」など、この研修がとても有意義であったことが確認できました。今後も、こうした人材の育成、学び合える場や、つながれる場づくりに貢献していきたいと思います。



2019 年度ユネスコ活動費補助金 SDGs 達成の担い手育成 (ESD) 推進事業

～『知床学』を通じた地域資源の発掘と地域振興の担い手づくり～

羅臼訪問報告と展望

代表理事 重 政子

北海道羅臼町において「SDGs 達成の地域の担い手を育てるプロジェクト」として立ち上げた事業の検証と今後の可能性検討のため、2月10～12日、厳寒の羅臼を訪問しました。まず、教育長との面談を行い、本棚にあった「知床学」の成果である小学生手作りの「昆布図鑑」を印象深く拝見しました。その後、羅臼町と学校、施設、自然環境を視察しました。国後島が想像していた以上に近くに存在することを実感し、またオジロワシを観光用に餌づけをしているなど、動植物を含め自然遺産を抱える観光地としての複雑な現状を垣間見ることが出来ました。地域の大凡の課題を把握することができ、持続可能な未来についての展望、課題を異なる分野の人達で、解決出来る道筋を見つけることが急務と思われました。

本事業を通じて、様々な関係者との繋がりを構築してきた集大成として、漁業関係者、町内会長、市議員、教育委員会職員等と様々な課題を話し合いました。しかし、現地で多様な立場をまとめるリーダー的人物の輩出には至っていないことが確認されました。持続可能な地域発展のために今こそ、地域の観光協会・企業・行政・教育委員会・ユネスコ協会等、異なる立場の人々が横の連携を構築する事が必要との強い想いが共有されました。その一つの手法として SDGs(ポ

ランティア)パスポート*の活用を ESD-J より提案し、今後実施に向けて動いていくこととしました。

(*リンク: <https://bit.ly/2uyqVMG>)

羅臼高校において、「知床学」の授業「渡り鳥は何故渡りをするのか」を参観した際には、この「知床学」ならではの教材を基に展開できる PBL の可能性を感じました。昨年 12 月に長崎対馬市へ派遣した同校 2 年生 2 名とは、体験を通して気づいたことを形にする「アイデアフラッシュ」を実施しました。多くの生徒が認識しているゴミ問題解決のために、まず自分達のアイデアを整理し、周囲（家族、特に影響力の強い漁師である父親）の協力を得て、校長や自治体関係者等を巻き込み、解決の提案をするというアクションプランを導き出しました。この活動は次年度に引き継がれることになります。

SDGs を羅臼町全体として取り組むことが行政執行方針として決まったことを受けて、ESD-J は引き続き、知床の自然環境や歴史、文化と現在の課題を、幼小中高を貫く教育課程「知床学」を地元企業や主体と連携して PBL として新しく開発し、SDGs に対応した「知床学 2.0」へ作り直す活動を支援していきます。



対馬市を訪問した高校生 2 名と羅臼高校で



エサをもらうため街中を彷徨するキタキツネ



根室海峡越しに国後島側から昇る美しい朝日



羅臼高校の「知床学」の授業



高校の教室から臨む国後島



小学生作成の「羅臼昆布図鑑」

第4回 地域担当理事報告シリーズ

北九州ESD協議会『新たなESDアクションプラン検討中』

九州・沖縄担当理事 眞鍋 和博

北九州はかつて「4大工業地帯」の一つに数えられ、わが国の殖産興業、高度成長に貢献してきました。その一方で深刻な公害に見舞われました。しかし、その公害を市民、企業、行政、大学等が一体となって解決に導き、現在では世界的にも評価をされる環境都市として生まれ変わりました。

そのような歴史を持つ北九州地域において、市民団体・企業・教育機関・行政などから構成されたESD促進のためのネットワーク組織として、2006年に北九州ESD協議会が発足しました。また、国連大学から国内4カ所目の「ESD促進のための地域の拠点（Regional Centers of Expertise: RCE）」にも選定されています。

北九州ESD協議会は、2015年策定の「北九州ESDアクションプラン2015-2019」に基づきESD推進を図ってきました。スローガンは「自分を変え、まちを変え、未来を変えていく、北九州ESD」です。環境を出発点にした市民主体のESD推進という「北九州方式」でESDを展開。市の中心商店街「魚町銀天街」内に設置した「北九州まなびとESDステーション」を活動拠点として、老若男女問わず多くの方々がESDに関わってきました。これらのESDへの取り組みが、北州市の「SDGs未来都市」選定や魚町銀天街の「SDGsアワード」受



賞にも少なからず寄与できたのではないかと考えています。

現アクションプランが終了するにあたり、新たなアクションプランの策定に向けて動き出しました。これまでの活動の成果や課題、GAP、ESD国内実施計画、「ESD for 2030」等の動向を踏まえつつ、市民参加による次期アクションプラン検討プロジェクト「ESDカフェ」を立ち上げました。2020年2月11日に第1回が開催され、40名の市民に参加いただきました。ワークショップでは、これまでの活動の振り返りや、どんな北九州を目指したいかなどについて、数多くの意見が出されました。今後は5月、8月と市民参加型のワークショップを実施、同時に有識者による検討委員会を重ね、2020年度末には、新たなアクションプランが完成する予定です。

SDGsを推進していくためにはESDが欠かせないとは言ってもありません。地域社会から地球規模の課題を解決する人材の育成に向けて、「北九州方式」をより進化させていきたいと考えています。



『沖縄の課題と向き合う教育の機会をどう活かしていけるかが鍵！』

九州・沖縄担当理事 大島 順子

沖縄でのESDの取り組みは、学校教育現場へのアプローチとして、ここ数年活発化しています。新学習指導要領にESDやSDGsが盛り込まれたことが追い風になっていますが、今回は教育関係者が対象の取り組みをご紹介します。

学校教員のESDへの認知度を高めるため、2014年度から免許状更新講習、2016年度から小中高校の初任者研修でアクティブ・ラーニングや持続可能な社会の担い手づくりと結びつけてESDを取り上げる機会が増えました。社会の課題を解決するために学びを具現化できるESDとの出会いは、受講者にとって「視点を変え取り組みを発展させることでESDに繋がる。」「未来のために何ができるか考え、実生活に反映させる必要な取組みだ。」など、今の教育に必須だとの実感に繋がっています。

学校教育でのESDの取り組みはユネスコスクールが牽引していますが、県内には小中高校に各1校ずつしか加盟校がありません。沖縄県教育委員会では加盟校の増加を目指し、2017年度よりESD研究指定校の制度を作り支援しています。現在、申請前のチャレンジ期間中の小学校もあり、カリキュラムをSDGsと繋げたESDの取り組みが着実に



沖縄のレストランではSDGsの取り組みを“見える化”するところも現れた！

進んでいます。

2020年2月にはESD研修会「世界遺産×ESD：私たちの宝を守り活かす学びとは」が県教育委員会と琉球大学の共催で開催されました。ユネスコが取り組む世界遺産教育に触れながら、焼失後の首里城復元への取り組みを始め、世界遺産の価値の内面化を図ることを学ぶ好機となりました。参加者からは、「SDGsを広めるための教育のあり方を考えることができた。」「沖縄県はESDを進めていくにあたって、題材が豊富なことに気づいた。」といった声が挙がりました。

3月には、竹富町・西表の学校教育現場の活動紹介を交え、九州地方ESD活動支援センターの企画のもとSDGs・ESD意見交換会が開催されました。島の文化・暮らしを受け継ぐ取り組みは、島の暮らしそのものがESDの実践であると確認する場となりました。2030年までの10年は、SDGsを課題発掘の手段として、沖縄の特性を明確にし、教育として正面から取り組んでいけるチャンスをどう活かすかが試される期間となるのではないのでしょうか。



西表島でのSDGs・ESD意見交換会の様子

ESD カフェ Tokyo 実施報告

【第5回】国の天然記念物『ニホンヤマネってなあに？ こまっていることって？』

事務局長 横田 美保

- 開催日：2020年2月22日（土）
- 参加者：14名

（公財）キープ協会清泉寮やまねミュージアム担当、饗場葉留果（あいば はるか）さんをお迎えし、国の天然記念物『ニホンヤマネ』（以下、ヤマネ）の生態や直面している課題についてクイズを交えながら分かりやすくお話いただきました。

ヤマネは、温度変化の少ない場所で冬眠しますが、温暖化で積雪が減ったり、気温が高くなる時期が早まることで冬眠の期間が短くなったり、気候変動に伴う変化が起きているそうです。雪がないと天敵に襲われやすくなったり、エサが少ない時期に冬眠から覚めることで栄養が得られずに弱ったり、ヤマネの取り巻く状況は厳しくなっているそうです。

また、動物が車にはねられてしまう事故が絶えないため、ヤマネやリスなどのための通り道＝『アニマルパスウェイ』をつくる活動について初めて知ったという参加者も多かったようです。後半のワークショップでは、羊毛クラフトでそれぞれの参加者の個性の表れたヤマネを作成しました。

最後に、「ヤマネのような動物をはじめ、全ての生き物は生態系の中に存在し関連しあっているため、ヤマネを守る活動というのは、私たちが生きている環境全体を守る活動である」と説明していただき、自分たちにできる環境保全活動を行うことで、結果的にヤマネも守ることが出来るということを学びました。



■参加者の感想

<大人の感想>

- ・ とても分かりやすい（子どもたちにも）お話で、大人も勉強になった。
- ・ 寄付、小さな動物への思いを共有すること、学校のPTA活動の読み聞かせで絵本を読んだりすること、節電等の環境保全活動でヤマネを守る活動に貢献したい。

<子どもたちの感想>

- ・ 雪が少ないことがヤマネには問題だということを知った。
 - ・ 温暖化を止めるんだっ！！
 - ・ とてもかわいくて、ヤマネのことをもっと知りたい。
- 詳細の実施報告は当団体ウェブサイトをご覧ください。



ヤマネについてもっと知りたい方はこちら↓

■清泉寮やまねミュージアム：

http://www.keep.or.jp/place_event/yamane/

2020年度 ESD-J 理事会・総会スケジュール

- 2020年5月23日（土） 第1回 理事会
- 6月13日（土） 新旧理事懇談会、通常総会
（総会后、車座トークを予定）
- 10月10日（土） 第2回 理事会
- 12月12日（土） 第2回 理事懇談会
- 2021年2月6日（土） 第3回 理事会

「未来につなぐふるさと基金」の採択決定！

この度、パブリックリソース財団、キャンノンマーケティングジャパン株式会社、公益財団法人日本自然保護協会が協働で実施する「未来につなぐふるさと基金」の採択が決まり、当団体と生物多様性に関する市民参加型プログラムを実施することとなりました。

今年度は、田んぼの生き物調査を始め、お米やバナナなど身近な食と生物多様性にまつわるテーマのイベントを数回予定しています。日程や開催場所等の詳細は、メーリングリスト、

並びに当団体ウェブサイトにて告知いたします。シリーズで参加していただくと、より効果的な学びになるようデザインしておりますので、是非ご参加ください。

■詳細はこちら：

<https://cweb.canon.jp/csr/furusato/news/20200316.html>



◆編集後記

2010年に愛知県名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（CBD・COP10）が開催されました。ESD-Jも近隣のキャンバスを会場にして、生物多様性とESDをテーマにシンポジウムを開催しました。あれから10年、ずっと先だと思っていた愛知目標の達成年2020年となりましたが、残念ながら掲げた20目標のうち、ほとんどが達成できませんでした。それどころか、未だかつてないスピードで人間を除く生物種が絶滅の危機に瀕しています。人間による活動を、大きく根本的に変化させない限り、次の10年目標は到底達成することはできないと専門家によるIPBESレポートに記されています。今年度の総会後の車座トークでは、IUCN日本委員会会長・渡辺綱男さんに生物多様性を巡るお話をしていただく予定です。是非、ご参加ください。

特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 201 T:03-5834-2061 F:03-5834-2062

会員募集中：正会員（10,000円）、準会員（3,000円）詳しくはWEBサイトをご覧ください

